

ホテルオークラ神戸様 宴会場「平安の間」に、演出性・操作性の高い次世代ネットワーク型調光操作卓を導入し、演出効果をアップ。 調光装置は既設機器を有効活用し、環境に配慮したリニューアルを実現しました。

ホテルオークラ神戸様が誇るメインバンケット「平安の間」。既設機器を再利用しブロック化された調光器を交換する手法で宴会場の稼働を完全にストップすることなく低コストかつ環境にも配慮した設備リニューアルを実現しました。

多彩な催しのすべてに的確に対応が求められる演出照明システムにはネットワーク型調光操作卓「プレジャーΣ」を採用いただきました。天井高8mの開放的な空間を華やかに演出します。

ご採用ポイント

- ①宴会場の稼働を止めない
工期分割方式のリニューアル
- ②低コスト・環境配慮した設備
リニューアル



▲大宴会場「平安の間」

パソコンやネットワークと接続して新しい操作環境を創出 ネットワーク調光操作卓「プレジャーΣ(シグマ)」

- パソコンで「パッチ」「レベル設定」の仕込みが可能。
- 調光室の外でも仕込みができるモバイル操作環境を実現。
- ジョグダイヤル方式でテンキーレス操作。
- 暗所での操作性を高めるイルミネーションボタンを採用。
- パソコン上でパッチ操作。舞台配置を見ながら負荷とチャンネル番号をクリックするだけの簡単なマウス操作でパッチを実現。
- パソコン上でレベル設定操作。マウスのウィールでレベルのアップ/ダウンが可能。操作卓の出力レベルをモニタリングし、グラフィカルに表示。
- データの保存・呼出・修整が自由自在。シーンやパッチなどのデータは、日本語で自由な名称をつけ PC のハードディスクに保存可能。



▲操作卓



■概要

施 主／ホテルオークラ神戸 様
所在地／兵庫県神戸市
リニューアル竣工／2011年8月

■施設概要

大宴会場「平安の間」
面積／2,100㎡
収容人数／3,000名（シアター）
部屋分割／3部屋分割

■納入設備

・調光操作卓・プレジャーΣ
・調光装置（調光ユニット交換）

宴会場の稼働を止めない リニューアルの内容

工期を分割できる調光盤内器修繕ユニットを開発

全てを取り替える従来方式では、宴会場の稼働を10日～2週間止めなければできませんでした。今回開発した「内器修繕ユニット」は、ユニット単位で取り替えることができますので、宴会場が未稼働のスケジュールに合わせてリニューアルできます。

特徴

- ・ 函体、銅バーを再利用し、環境に配慮した方式
- ・ 盤の撤去搬入、負荷の入れ替え不要の為、工期が短縮でき、運用への負担を軽減
- ・ 部分入れ替えにより、廃材が少なく、撤去、廃材処理のコストを削減

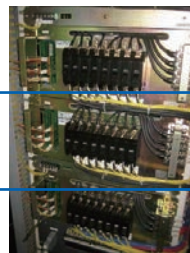
改修スケジュール

今回は、修繕エリアを分割することによって、3工期に分けての取替え作業が可能となり、工期と工期の間に宴会場を稼働させることができました。

- ・ 第1工期：調光器ユニット・制御部取替え（4日間）*
宴会場稼働
- ・ 第2工期：ニュートラルスイッチ部取替え（2日間）*
宴会場稼働
- ・ 第3工期：主幹ブレーカ部取替え。ブレーカサイズが従来よりも小さくなるため、銅バーも新たに制作し取り替え。（2日間）*

* 既存設備の仕様により、工事期間は異なります。

●調光盤内器修繕ユニット



調光盤内器

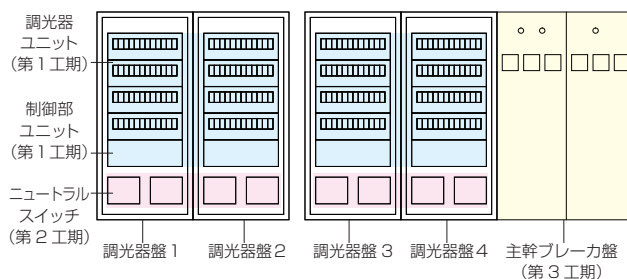


調光盤内器修繕ユニット
ユニット単位で取替可能。

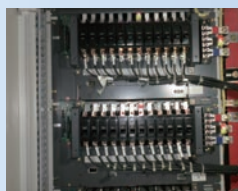
宴会場を稼働
したまま
リニューアル

●調光器盤

- ・ 調光器ユニット：盤4面、16ブロック
- ・ 制御部ユニット：盤4面、4ブロック
- ・ ニュートラルスイッチ：盤4面、192回路



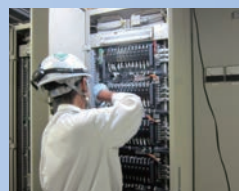
改修方法



取替え前の調光器盤



調光器の取り外し



新調光器修繕ユニット取付け



改修後の調光器盤

お客様の声 「リニューアルについて」



（株）ホテルオークラ神戸 管理部 次長
梨ヶ瀬 進 氏

決め手のポイント

- ・ 宴会場を稼働させながら改修ができる。
- ・ 環境へ配慮しながら、コストも低減。
- ・ 工期も圧縮できる。

演出照明設備も導入から22年、リニューアルの必要性を感じてはいましたが、リニューアルとなると機器を全て撤去・更新しなければならず多くの時間とコストが発生し、工事期間中は宴会場が使用できなくなるなどの制約もありなかなか踏み切ることができませんでした。そこで提案いただいたのが、宴会場を稼働させつつ、ブロック単位で作業を行っていくというものでした。

「平安の間」は当ホテルの中でも一番大きな宴会場ということもあり長期間稼働できないということは大きな損害が伴うため、稼働させながらリニューアルが行えるというのはとても魅力的でした。函体・銅バー等を再利用するという今回の手法は、環境へ配慮しながらも、コストも低減でき、撤去搬入作業が少なくなるため工期も圧縮できるということから今回のリニューアルに至りました。

■発行
パナソニックEWエンジニアリング株式会社
〒540-0001 大阪市中央区城見2-1-61 JYOタワー10F

© Panasonic Electric Works Engineering Co., Ltd.

本書からの無断の複製はたたくお断りします。
このチラシの記載内容は2024年4月現在のものです
EGR-01-03 202404